

# PETCHTAMSEE

Hybrid Gymnocalycium from Thailand

私(カイモック・チャウィーワナコン)とサボテン(ギムノカリキューム以下ギムノ)の出会いは今から22年前、子供達3人と園芸植物市場を歩いていた時でした。あるお店でギムノに目を引かれ子供達に1鉢ずつ贈りました。

子供達にギムノを贈った理由は、家族と海沿いの田舎に居を構えていたので、時間に余裕のある時や休みの日、そして趣味やリクリエーションの一環としてギムノの世話をする事で命の尊さと他人を思いやれる優しい心を身に付けてもらいたいとの親心からでした。

当初、私はギムノの事など何も知りませんでした。早く大きく育てたい、早く花を咲かせたい、そして、何より子供達にギムノの生長を直に感じて喜んでもらいたいと思い、本を読み栽培家からのアドバイスを受けながら栽培に挑戦して来ました。ギムノの栽培を始め、時の経過と共に子株が付く様になり、花が咲き、種が付く様になりました。そうすると私も子供達以上に栽培の楽しみと喜びを感じる様になりました。

「もっと沢山の花を咲かせるにはどうすれば良いのだろうか?」「もっと沢山の種子を付けるにはどうすれば良いのだろうか?」「他にはどんなギムノが有るのだろうか?」

ギムノに対する興味は大きくなるばかりでした。

22年前にタイの市場で見られたギムノは今の様にカラフルな斑入り株は無くほとんどの個体が緑色をしていました。それでも稀に斑が入った個体や日本から輸入された緋牡丹錦を園芸植物市場で見つけた際にはそれを購入し、所有株との人工授粉で交配を繰り返して行い栽培の規模を次第に大きくして来ました。

綺麗な斑が入るギムノは100粒の種を蒔いて1株あるか無いかです。綺麗で鮮やかな斑入りだと思える個体を産出で来た際には、その個体を他の綺麗な個体と交配させ、より鮮やかでより濃い色を目指し22年間繰り返し交配して来ました。

綺麗で鮮やかな斑入りのギムノを追求し続け、ペッチタムシーのギムノは色彩豊かな宝石のように美しいものになりました。

- カイモック・チャウィーワナコン -